

将来の知財業界を牽引する 人材を輩出するライセンス委員会!

ライセンス第2委員会 委員長

添田 雅人氏

(所属：株式会社日立製作所)



interview

自己紹介

国内外での知財契約交渉、AI・データ戦略、新事業創生支援、組織再編の業務に従事。2020年よりJIPAライセンス委員会に所属し（以前はフェアトレード委員会にも所属）、2023年4月より現職。
趣味は釣りです（いつかはマグロを釣ってみたい!）。

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

ライセンス委員会では、毎年、全委員にアンケートを行い、各社・各人の興味関心のあるテーマを幅広く収集してテーマの大項目を決定します。

委員募集時には、絞り込んだテーマの大項目とそれに紐づくキーワードを掲げ、実際のテーマの方向性や詳細は、当年度の小委員会メンバーにて議論して決めていただきます。

毎月の小委員会での調査研究に加え、7月の合同委員会では、他の小委員会の調査研究に触れることができますし、10月の合宿（ちなみに、23年度は札幌、24年度は那覇でした）では外部機関・専門家との意見交換を行うこともできます。そして、3月の成果報告会では、委員の上長をお呼びし、活躍された委員の表彰や全体での活動報告も行われます。

その他にも、海外への調査派遣や他団体との意見交換等、様々なアプローチで調査研究テーマの深堀と、知財実務の最新の課題・議論に触れることができます。

Q 委員会の特長／魅力は？

ライセンス委員会は、委員相互間、委員と理事、委員と外部機関・専門家の方々等、さまざまな「人との繋がり」を重視しています。

皆さんもこんな経験はありませんか？
「相手が自社の事業を理解してくれていたら、もっと話は早いのに」
「どうしてここにこだわっているのだろう」

業界や組織の雰囲気、その人柄を知っているだけで、早期に認識のズレを理解できたり、その背景に共感できたり、また相手を説得する理屈が見つかったりと、方向性も見定まらない長期間の交渉が、柔軟かつスピーディーに、Win-Winの形を作ることができるかもしれません。

また、「あの組織のあの人の話を聞いてみたい」

意外と狭い知財業界、ライセンス委員会の人脈をフル活用すれば、直接のつながりのない会社や専門家の方々との意見交換を実施することもできるかもしれません。

このように、「人との繋がり」は、交渉や意見交換の場面以外にも、業務上のさまざまな悩みの共有や最新情報へのアクセス、時には本やインターネットにも書かれていない、経験者にしかわからない苦労や工夫、裏話に触れることができるなど、ライセンス委員会を卒業した後も生きてくるネットワークとなります。

そして、そのような「人との繋がり」ができるよう、調査研究だけでなく、人脈形成のためのさまざまなイベントも全力で準備し、全力で楽しむことがライセンス委員会のモットーです。

Q 委員会としてのこだわりは？

私は、ライセンス委員会は、将来の知財業界を牽引する人材を輩出する委員会だと思っています。

ライセンス委員会は、調査研究に加え、関係機関との意見交換や意見発信、研修講師の派遣など、その活動は多岐に渡りますが、委員の皆さんは自身の興味関心や自社のためだけでなく、将来の知財業界のために、という思いで日々活動をされています。

ライセンス委員会にこれから新しく入ってくる方々も、すでに卒業された方々も、ライセンス委員会に所属していたことを誇りに思えるよう、引き続き「人との繋がり」を大切にしていきたいと思います。